

はっちの作り方

THANK YOU



はちみつとフリーペーパーのお店

はっち。この毎週木曜日の夜8時から週1回数時間しかオープンせず、しかも”はちみつとフリーペーパー”という少々不思議な組み合わせのお店がなぜできたのか？そしてどうなってきたのか？2015年のオープンから約2年弱過ぎた今を機会にあらためて振り返ろうと思う。

場所のはじまりは、本当にそれぞれに無数のパターンがある。何年も何年も理想の物件を仲間と探して飲食店やゲストハウスなどを自分たちでオープンする方もいれば、家族や友人、知人から偶然、空きスペースの有効利用を持ちかけられて何かしら始める方もいると思う。では「はっちは？」と言えば、どちらかと言えば後者にあたる。

最初のきっかけは、はっちから徒歩10分位にある僕自身の自宅マンションの一部をイベントスペースとして毎週夜にあれやこれやのトークイベントや飲み会、上映会などをしている『住み開き511』に、大型商業施設グランフロント大阪近くに店舗物件を借り、マルシェなどの農業生産者を応援するイベントをしている方から”事務所1Fの自転車置き場にしている場所を何かに使えないか？”と有効活用の相談に来てくれた事だった。

当初、僕としては、あまりに物件の場所がこの『住み開き511』から近過ぎる事、またこのマンションの一室でイベントをしている日々に満足していた事もあり、その時にはあまりピンとこず、また自身としても特別に必要性を感じる事はなかった。しかし、それからしばらくして、先ほど有効活用の相談をしてくれた方の会社で働いている養蜂家の女性から”自分の育成したオリジナルブレンドのはちみつを販売する場所を探している”とまた別に相談を受けた事が僕の中でカチリとはまったのが次のきっかけになった。

”あれ？ちょっと待てよ？それなら新しくどこかに場所を探すのではなく、2人が働いている事務所の1Fをうまく活用すればコストや様々な面で理想的な形で『場所の有効活用』『場所を探している』両者の希望が叶うのではないかと相談を受ける最中に思いついたのだ。これは灯台下暗し？やったね。多少内心で得意になりつつ、思いついたその瞬間に電話をかけたのを覚えている。

”あの自転車置き場ですが、やっぱり僕に何かさせてくれませんか？”



電話をきった後に冷静になると『何かって何だ?』という感じで思わず苦笑してしまったけど、即答で“いいですよ”とそれでも返事をもらえたのって（住み開き511の運営を既に見てもらっていたので多少の信頼はあったかもしれないが）本当にありがたい事だなとしみじみと余計に思った。そしてその信頼に応える為にも『売り手よし』『買い手よし』『世間よし』の近江商人ではないが、この場所に関係する人それぞれが無理をせず、しかし全員に何かしらメリットがあるコンセプトを考えなければならないな。と同時に思った。

とはいえ、養蜂家の彼女が『はちみつ』をメインに何かするのは自然な流れで決まったものの、言い出した以上は必然的に関わる事になるであろう僕は、では具体的には『何をするのが一番良いのだろうか?』としばらくはあれやこれやと試行錯誤する日々がすぎる。

場づくりメモ：かかわる全てのステークホルダー（利害関係者）の事を考える

遅れた自己紹介にもなるが、僕は会社の仕事とは別にワンプロジェクトというアーティストの支援を目的とする非営利団体、いわゆるNPOの代表をしており、先ほど紹介したマンションの1室「住み開き511」以前も作品を展示できる「居酒屋を改装した多目的スペース」（アトリエ輪音）を5年間運営した経験があった。その事で自分だけでなく他の方の場所活用に関わる機会が数多くあった。

そういった理由で、この場所で最初に僕が浮かびメモ書き提案したのは、やはり同じような『作品を展示する場所』ギャラリー的な活用をする事だった。マンションの中にある「住み開き511」と違って、大阪駅に「より近く」しかも様々な人が訪れやすい立地の「路面店」だったのも大きい。



でも一方で、確かにアイデアとしての実現可能性は高いかもしれないが、直感的な心の声が“これじゃない、なんか違う”と違和感を告げていた。それにあらためて冷静に考えると立地的に訪れてくれ

る人は確かに多いかもしれないけれど、利用する立場のアーティスト目線だと作品を展示するに三角形の特殊な間取りは「使いづらく」何より「狭すぎる」

うーむ。どうでしょうか？そんな時に浮かんだのが、以前に東日本大震災をきっかけに京都でわずか2回だけ数千部発刊したインタビューフリーペーパー『とある』の事。あの時、発行作業だけでヘトヘトになり、ようやく完成した後に今度は設置場所を探すのに予想以上に苦労した経験を思い出したのだ。また、ちょうどその時に東京で発刊媒体を置かせていただいていた「フリーペーパー専門店」オンリーフリーペーパーさんに次いで、京都にも新しく只本屋さんという第2のフリーペーパーのお店ができた事を知った。

そうだ！これだ。僕が発刊した後で、今度は設置場所を探すのに困ったように、同じような悩みを感じている発行者の方は絶対いるはずだ。それに東京や京都以外に、大阪にだって「フリーペーパーだけ」を集めた場所がアクセスの良い所があれば、きっとフリーペーパーを探している人達にとっても利便性があって喜んでくれるはずだ。またもや思いついたら即、行動する。

”はちみつと（加えて）フリーペーパーのお店にしましょう！”

あいかわらず事前の説明や共有をすっ飛ばし、結論だけ関係者メーリングリストに書き込んだので、当たり前？オープンした後に”なんではちみつとフリーペーパーなんですか？”と度々聞かれる羽目となり、今になっても関係者を困らせてしまっているが、しかしこの時が、自転車置き場のスペース活用コンセプトが僕の中では「はっきりと完成イメージが視えた」瞬間だった。

そして、その後は（僕の場合にとってはこれまでの経験をふまえた”いつものパターン”だけど）この場所のストーリー作りを始める。具体的な順番としては、まずはTwitterやFBなどのソーシャルメディアや口コミで興味をもってくれる参加者を広く募り、ペンキ塗りなどの簡単な作業や会議に参加してもらった後に何度も意見交換し反映させると共に、同時に毎回の作業の過程を「短いスライドムービー」にしてWEB上で公開し拡散するのを繰り返す事で完成オープンまでの広報活動も兼ねる。そんな感じだった（もちろんオープンの時にはその「短いスライドムービー」を一本化して、オープンイベントで上映会をするのはお約束！）

そんな実際の完成までの作業より、不確定要素として心配していたのはスペースが狭い関係上、主にソーシャルメディアだけに限定して募集したフリーペーパー自体がそもそも集まるのだろうか？という事だった。しかし、こちらも想像以上に早く遠方の方からコンタクトをいただいた事で”よし！大丈夫！”と手応えを感じた。

ちょうど世間では、SEALDsという学生団体による安保法案に反対するデモが話題になっていたが、彼らの活動に賛同するかしないかという直接的な話では全然なく、しかし彼ら若者達がちゃんと考えて「自分なりのアクション」をしている姿にも大いに刺激を受けた。”うん、デモ活動とかではないけれど、ここで僕はネットでは検索できず、またアマゾンでも購入できない。でも確かに『フリーペーパーという形で声をあげている人達』を守るんだ”そんな気持ちになったのだ。

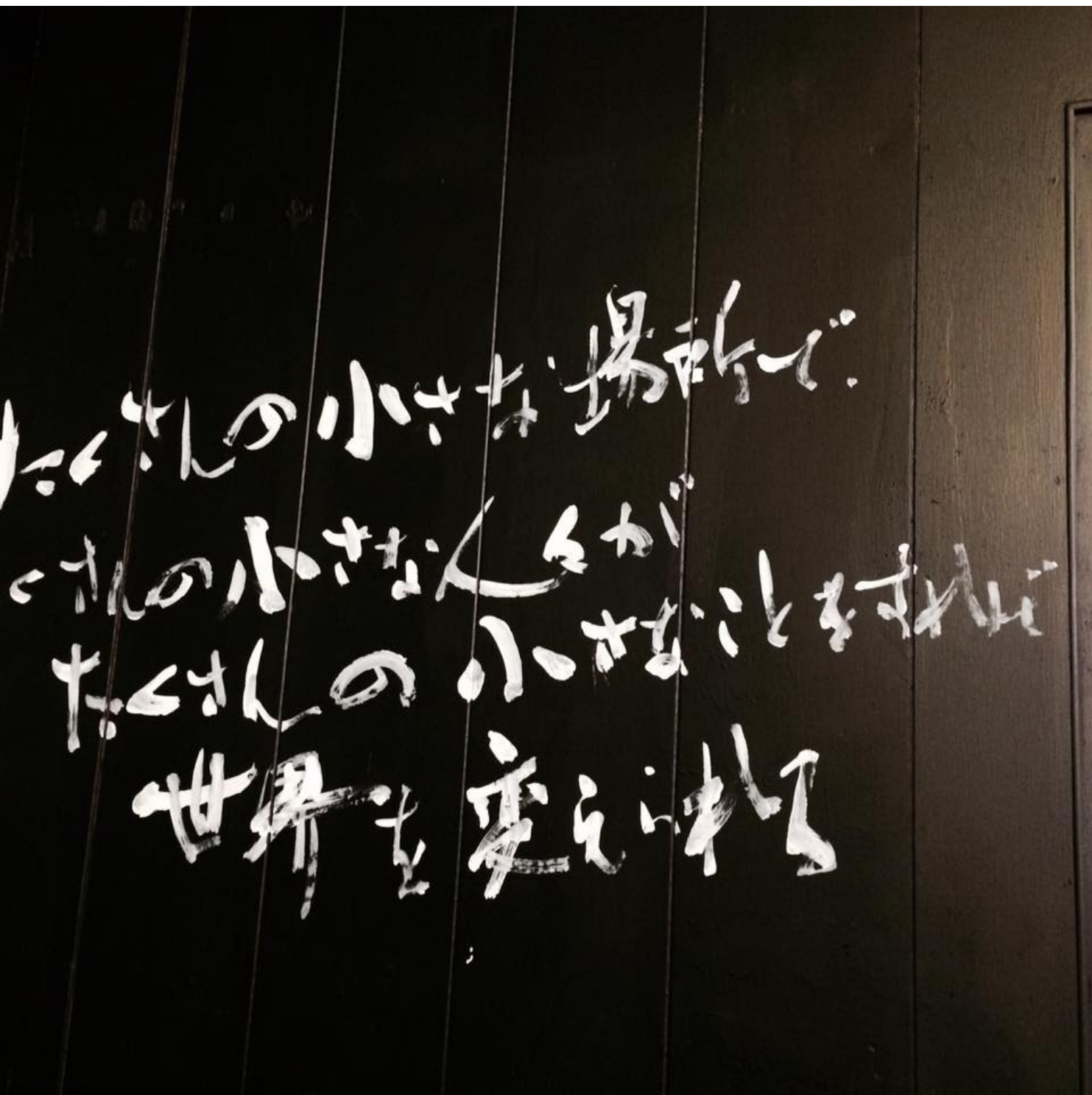
そして遂に2015年12月、約3ヶ月間の制作作業を終え”はちみつとフリーペーパーのお店”はっちが誕生した。



場づくりメモ：その場所だから出来る事をその場所に応じて柔軟に考える

こうして大阪初の、そして2017年現在も唯一の組み合わせとなる”はちみつとフリーペーパーの
お店”はっちがオープン。当日は本当にありがたい事に沢山の方々がお祝いに集まってくれた中、こ
のお店の目指している想いを「言葉という形にして」運営メンバー全員で壁面に描いた。

かつての冷戦時代に東西ドイツを分断していたベルリンの壁に書かれていた無名の誰かの落書き『た
くさんの小さな場所で、たくさんの小さな人々が、たくさんの小さなことをすれば、世界を変えら
れる』だ。そして晴れて、かつては自転車置き場だった名もなき場所は、はっちという新しい名前でも
語を始める事になる。



ここであらためて「お店の紹介」と「運営メンバー」を紹介させていただこう。

『はっち』
名前の由来は養蜂家メンバーが参加している事から、はち及びはちみつから。そしてここが関係する人全てにとってhatch（卵をかえす、孵化する）何かしらの自分の殻（世界）を破るきっかけになれば。という願いも重ねている。店内の内外装、WEBサイトのイメージカラーは、はちの黒と黄色、そして自然をイメージさせる緑を採用（もっとも店内照明に農業用の黄色の蛍光灯を使用した事で、予想以上に黄色のイメージが強くなってしまっている）また開店日が木曜日だけなのはメンバーそれぞれにとって負担にならない事、そして開店中の密度をあげるため。狭くは『はちみつとフリーペーパー』広くは『食と本』の文化を発信する為に通常営業日の他に農業関係者、フリーペーパー、本の著者のトークイベントを開催する他『はっちチャンネル』というフリーペーパー紹介WEB番組も毎月放送中。なお、かなり老朽化した物件の為に壁はもろく、訪れる人がもたれたり、叩いたりしないか内心いつもヒヤヒヤしているのはここだけの秘密だ）

『運営メンバー』

比嘉彩夏（はちみつ担当）
ハニーコンシェルジェ。高2の夏にはちみつに恋をしてから、今も片思い中。はちみつ、ミツバチを通じた環境保全・啓蒙活動を進めています。はっちではBARはちみつを主宰し、新しいはちみつを表現するために想いを馳せています（これまで文中で筆者が若手養蜂家と紹介していたのは彼女。現在は滋賀県で地域おこし協力隊としてやグランフロント大阪で開催されるUmekiki木曜マルシェのスタッフとしての顔も）

まつもとまき（フリーペーパー担当）
ワオンプログジェクト理事。はっちではフリーペーパー担当として中の人をしています。はっちのロゴデザイン等も担当しています。てづくりのお店ならではの温かみをロゴから感じとっていただけると嬉しいです（WEB番組はっちチャンネルにて、自由奔放にフリーペーパーを紹介している看板娘？でもあります。また最近はフリーペーパーを制作するワークショップの講師として各地で活躍もしています）

田面遙華（イベント担当）
書家・アーティスト。書道教室HARUKANA主宰。ワオンプログジェクトの理事。はっちでは食とアートを軸に運営全体を担当している。不定期でイベントや書道ワークショップも開催。今一番興味があるのが、料理とお酒と、アンティークなもの。そしてモノヅクリ。フリーペーパーを片手にお酒が飲める隠れ家的な空間でお待ちします（同じくWEB番組はっちチャンネルにも出演。はっちでは”おかみ”として振るまっているが、2016年に完成した2Fスペースが著名な書道家としての彼女の隠れ家的展示空間になっているのは訪れた人しか知らない秘密だ）

須山直哉（DIY担当）
大学卒業後に映像作家として様々なユニットで活動した後、ワオンプログジェクトに合流。現在は職人としてかつての拠点であったアトリエ輪音以降の場づくりに関わるDIY担当です。はっちでは主に内装、トイレやドアノブなどの細かい作業を担当。（筆者とは気づけば10年以上の友人でもあります。DIY以外にイベントのサポートにふらりと現れたり、職人として以上に裏方スペシャリストとして活躍する側面も）

田中冬一郎（企画担当）
ワオンプログジェクト設立者。現理事。一応金融と文化が専門領域のはずだが、あらゆる興味のある事、問題意識を勝手に感じた事に飛び込んでいくので正直な話、もう自分でも何者かわからなくなっているし、内面どうでもいいと思っている。はっちでは全体のコンセプト決定の他、オープン当初はフリーペーパー担当として、現在は企画営業的にイベントのゲスト交渉や他スペース、イベントへの企画持ち込みなどを担当している。（筆者である。メタボ気味でおっさん度が高い為、最近は店舗イメージを損ねないように？こっそり隠れるように存在感を消す健気な努力をしている。ダイエッタ

ーとしてめんどくさい一面もあります）

以上、はっちの名前の由来紹介と、運営に関わる女性3名、男性2名を紹介した。

場づくりメモ：テーマカラーをお店、サイトに共通して「3色を上限に」設定、統一感を作る

突然だが、これまでの自身の経験を踏まえ、僕は大体において場所は3段階、約3年間周期の成長プロセス、サイクルを繰り返すと考えている。順番に紹介すると、まずは色々やってみる『黎明期』、色々やってみた結果としてスペースとしてのコンセプト、イメージが固まり始める『成長期』、そしてスペースとしての活動成果が結実し、2店目ができたり移転や（閉店）など新たな展開が起きる『発展期』の3つだ。

それを念頭に置いて、盛況だったオープン日が過ぎ静けさを取り戻したこのお店、はっち。その初年度1年目に僕が目標イメージにしていたのは、まずは色々やってみる『黎明期』としての試行錯誤をとにかく行う事だった。しかも毎週木曜日夜、つまり毎月4日（年間だとざっくり48日間！）しか空いていない今回ののはっちの場合、ヨーロッパで広く使われる有名な格言”ゆっくり急げ”ではないが、週一のノンビリとしたペースを守るからこそ「意識的に急いで」行わなければと思った。

とはいえ、今回はあくまで『はちみつとフリーペーパー』なので。そのコンセプトを同心円的に拡大する事はいくらでも構わないとしても、まったく「何でもかんでも自由にイベントをする」のはおそらく間違いだろうなと同時に思っていた。

そんな2つのバランスの間で、まず始めたのは『フリーペーパー研究会』というお店のコンセプトを外にわかりやすく説明しつつ、実はフリーペーパー素人？の僕や運営メンバーそれぞれのフリーペーパー界隈の勉強も兼ねたトークイベント。そして自分の専門外で、こちらは機材提供や設営以外は養蜂家メンバーにお任せするしかなかったが、彼女が主宰しているミツバチやはちみつの紹介を通じた環境保全・啓蒙活動『BARはちみつ』という試飲会、試食会も兼ねた交流イベント。最後に店舗以外でフリーペーパーを送ってくれた発行者の方々に感謝と到着報告を同時に伝えつつ、こちらはしゃべりが下手なメンバーの勉強も兼ねたWEBでのフリーペーパー紹介番組『はっちチャンネル』だった。



それぞれに試行錯誤があって、例えば『フリーペーパー研究会』の場合は”研究会と名乗る以上は白衣でしょ！”と第一回目は僕が意気込みすぎて白衣を着て開催し参加者間に微妙な空気をつくったり、はっちチャンネルでも当初は”5分間で5紙を紹介する”とうたって、ラジオ番組よろしく最初は台本すら用意していたものの、いざやってみると気づけばすぐに時間は予定の5分をはるか越えて10分、15分と拡大していったり。まあ色々”まずはやってみる”事で予想外の事は起きたが、一方でそれはスペースに関わるメンバーそれぞれの関係性や役割分担が明確になる為に必要な時間だったと思っている。

そしてあっという間に迎えたオープンから1周年の記念イベント日。2016年11月。昼間は（これからのチャレンジの練習を密かに意図し）はっち内ではなく外部、グランフロント大阪のコワーキングスペース『ナレッジサロン』にて養蜂家によるトークイベント、フリーペーパー担当によるフリーペーパー制作ワークショップを行った。そして夜ははっちに移動。今後の展開として、1年をかけて試行錯誤をして運営が安定してきたからこそ、来年の2年目からは外部で『出張はっち』として出かけテイク「外部活動」をしていく事を発表した。

また『はちみつとフリーペーパーのお店』というコンセプト自体は大切にしつつ、それ以外にも広く『食（農産物）と本（紙媒体）』にも関わる事をスタートさせる。と「当初のコンセプト」に追加修正する事を決めたのもこの時だ。

色々やってみた『黎明期』を過ぎて、僕なりに感じた事があったからだ。それにそれは”はちみつとフリーペーパー”だけに限定して活動するより「より大きく、様々な領域へと飛び出せて」結果的に発行者さん達にも今以上に多くのメリットがもたらすはずだと確信していた事も理由だった。

そんな事を思ってる内に、あっという間に最初の1年間が過ぎた。

場づくりメモ：3段階3年間の成長プロセスを考えて、その段階ごとにすべき事を行う

『黎明期』の1年を過ぎて”はちみつとフリーペーパー”から”食と本”へ。そんな風にコンセプトを広く拡大した思考の変遷について、活動2年目を紹介する前に”もう少し”説明させていただく。

回りくどいかもしれないが『場の運営』において、自分達の活動を支える『コンセプト』は言葉として全員の意識共有をはかれるなどの利点もある一方で、気づけば予想以上に制約として関係する人全ての「行動や思考を無意識に縛る事」があるからだ。だからそれを考える作業は丁寧にしすぎる位でいたい正しく、またせっかく一度決めたとしても、ただ守るだけでなく状況の変化に対応して何回も何回も微調整を地道に繰り返す事が大切だったりする。

さて、食に関しては、はっちの運営メンバーの”はちみつ担当”の養蜂家がオープン1年目を過ぎて、滋賀県の地域起こし協力隊に採用された事ではっちの店舗運営への直接的な参加やイベント開催自体はどうしても不定期にならざるを得なくなった事。しかし一方で地域おこし協力隊としての新たな活動の中でミツバチやはちだけでなく、地域の人たちと食に関する企画に幅広く携わる事が増えたからだ。なので、その方が養蜂家自身にとっても自由度が高く、他のメンバーが養蜂家だけに頼らずとも活動できる為にも適切だと考えた。

＜ みんなで探そう、ニホンミツバチの巣 滋賀・東近江 でイベント



切り株など、ミツバチが巣を作りそうな場所を調べる比嘉さん（手前）と、滋賀県東近江市石浜町、石浜寺

また本に関してはたとえば“フリーペーパーのお店”を名乗る以上は日々精進。と送られてくるフリーペーパーの全てに目を通し1日1誌のペースでの紹介を毎日の習慣にしつつ、空いた時間に本屋に限らず広く様々な『本を媒体とするプロジェクト』を見学したり、フリーペーパーや出版業界の関係本を手当たり次第に乱読した事で、少子化や電子書籍などの影響で不況と言われるこの業界全体が、僕にはフリーペーパーのみに留まらない可能性溢れる魅力的な世界に見え始めていたからだ。

その視点の変化に特に大きく影響を与えた2冊は“本と人の出会い”を作る型破りなプロジェクトを次々と立ち上げている下北沢の本屋B&Bの内沼晋太郎氏の『本の逆襲』そして日本初のブックディレクターとして活躍しているBACH代表、幅允孝氏の『本の声を聴け-ブックディレクター 幅允孝の

仕事』。

お二人とも連日メディア等で活動を発信されている著名人なので、以前から名前はもちろん知っていたものの、はっちという試行錯誤を始めた事で『他人事ではなく自分事』として両氏の活動や言葉がより響くようになっていたのだ。そして実際にお話を伺ったり、手がけたお店や施設を巡って関係者から話を伺う中で、その思いは強くなっていた。

こうして『黎明期』を過ぎて、コンセプトは1年目の”はちみつとフリーペーパー”から広く”食と本”へと。その広い可能性を追い求める2年目の日々が始まる。一気に世界がばばーと広がったワクワクと、考えるべき事が急拡大するワタワタ感（千里の道も一里から？）

場づくりメモ：コンセプトは大切に決めて柔軟に変えていく

『フリーペーパー研究会』『BARはちみつ』そしてWEB番組『はっちチャンネル』と1年目の試行錯誤の結果としてはっちの定例企画が誕生した『黎明期』を終え、運営体制やコンセプトが明確になった事で『成長期』と位置付けていた2年目の活動、そこで目指したのは劇作家、寺山修司の”書を捨てよ町へ出よう”もとい”書（フリーペーパー）を懐に町へ”つまり、はっち内部だけの活動だけでなく、様々な形で外部に出かける事だった。

その為に、はっちの通常運営はメンバーのイベント担当の”おかみ”こと田面さんを中心とするはっちチームにお任せし、僕自身は企画担当として”若者達の自己表現手段”として出版文化が注目されている韓国はソウルを訪れて書店巡りをしたり、全国の有名な本屋さんへの挨拶まわりを順次にスタートさせた。

また、はっちのある中津周辺のまちあるきを皮切りに、関西ネットワークシステム（KNS）という異業種ネットワークの定例会で、はっちの活動をプレゼンテーションしたり、空堀で初開催された”物語する芸術祭”という地域イベントなどに参加し”出張はっち”としてフリーペーパーの制作ワークショップを開催させていただいた。



食、養蜂家の地域おこし協力隊としての活動も、百済寺住職、地域の有志と取り組む事になった幻の酒『百済寺樽（ひゃくさいじたる）』復活を目的にしたプロジェクトがクラウドファンディングでの資金調達に成功し、おかげさまで多くのメディアに取り上げられて話題となった。

これら多岐にわたる活動の全てが、1年目のはっちの活動の経験が直接的、間接的なベースとなっていて、この2年目のタイミングで新しい外部活動を始めた事は「予想していた通りに」様々な意見をもらったり、改善点を自分達で見つける良い刺激となっている。

また外部だけでなく、はっち内部企画にも変化が起きた。『フリーペーパー研究会』以外に、商業出版した著者をゲストにお迎えして、その活動や出版の経緯を伺う新企画『ブックトーク』が9月『ひつじの京都銭湯図鑑』大武千明さんを皮切りにスタートしたのだ。外部へ出かけて様々な方と出会えた事、そして事前に新たなコンセプトとして”食と本”を設定していた事がこの企画がスタートした遠因になっている事は間違いない。

そして最後に、こちらは外部に出た事との直接的な関係性はないが、1F自転車置き場だけであった、はっちのスペース自体も貸し手の好意もあって2016年7月に2F部分まで拡大した。貸し手の希望するコンセプトがなぜか『遊郭』だったので1Fの黄色と違い、赤をテーマカラーにして運営メンバーにて3ヶ月間、制作作業を行ったが、完成して外から見れば1Fは黄色、2Fは赤と色彩的な対比で場所としてのはっちの存在感を高める事に繋がったと思う。

こうして2017年9月現在、まだ3ヶ月弱の期間を残しているが1年目のゼロから始まった『黎明期』1年間の次の段階、『発展期』の活動が現在も進行形で続いている。

場づくりメモ：スペース内部、外部とバランス良く企画を反復する事でマンネリの発生を避ける

ここまで、はっちの『成り立ち』と『1年目、2年目の活動』を紹介させていただいた。ここからは現在進行中の、あるいは計画中の企画について紹介させていただいて、ひとまずの終わりとさせていただきます。

まずは現在進行中の『フリーペーパー・オブ・ザ・イヤー』という2017年9月現在、初開催に向けて準備を進めているフリーペーパーだけの約3ヶ月間の合同巡回展、そして期間中の来場者投票により”その年でもっとも支持されたフリーペーパーを決定する”プロジェクトだ。<https://freepaper-of-the-year.jimdo.com/>



FREEPAPER OF THE YEAR

2017



「フリーペーパー・オブ・ザ・イヤー」とは全国から応募された
フリーペーパー・フリーマガジンを展示し、人気投票により
その年で最も支持されたフリーペーパーを決定する合同巡回展です
(各会場詳細についてはサイト「展示日程」を参照してください)

<https://freepaper-of-the-year.jimdo.com/>

奈良県立図書館情報館

はちみつとフリーペーパーのお店
はっち



奈良県立図書館情報館

9月30日
～10月29日

奈良市
大安寺西一丁目1000番地



はちみつとフリーペーパーのお店

10月5日
～11月16日

大阪市北区
中津5丁目4-21

立呑みギャラリー新聞女

あべのbase240

新聞女

10月27日
～11月7日

大阪市浪速区1-2-2
波芳ビル1F

あべのbase
240

11月6日
～11月12日

大阪市阿倍野区
阿倍野筋3-10-1
あべのペルタ地下2F

レトロ印刷JAM

中間発表
みじんこ洞

まちライブラリー
@もりのみやキューズモール



レトロ印刷

11月14日
～11月20日
大阪市北区
豊崎6丁目6-23



11月23日
東京都杉並区
高円寺南
4丁目426



11月27日
～12月10日
大阪市中央区
森ノ宮中央
2丁目1-70

こちらは、僕たちがフリーペーパーを紹介していく中で”もっと発行者さんのお力になるにはどうしたらいいだろうか？”と考えていた時に浮かんだ企画で、今回協力していただいている図書館、ギャラリー、アートスペースなどでの展示自体も新たな発表機会になると考えているが『来場者の人気投票』という仕掛けを入れた事でただ一方的に媒体を受け取るだけでなく読者の反応もフィードバックし、期間限定ではあるが『発行者』『読者』の双方向の新たな交流が生まれる事を期待している。

また『フリーペーパー・オブ・ザ・イヤー』と少々大げさな名前を今回つけたのは、このプロジェクト以外にも既に長年開催されている有名な『フリーペーパー大賞』他の発行者を表彰して応援する企画が多々ある中で、僕たちだからこそできるインディペンデントな企画を別に新たに創るという企画者としての密かな意気込み、そして単純に今回の企画で受賞された発行者さんが”周囲に自慢できる名称にしたい”そんな気持ちが込められている。

まだエントリー募集期間中で、本当に全てこれからなので不安はあるが、はっちの運営仲間たち、そして準備段階でお会いした方々から意見交換し、何度も何度も企画書や内容自体のブラッシュアップが図れた事、また”はじめまして””ひさしぶり”の方々と展示スペースの相談をさせていただく中でもらった有形、無形の応援が僕を支えてくれている。（おかげさまで参加費無料を今回実現できています。あらためて皆様に感謝を）

来月から始まる展示1番目の奈良県立図書情報館での展示も始まっていない段階で次回以降の事を語るのはいかがでしょうか、無理のない範囲で引き続きこの『フリーペーパー・オブ・ザ・イヤー』の企画を次年度以降も続けるために、まずはこの初開催となる今回が良い形で終われるように準備を進めていきたい。

そして、最終的には続けていく事で、これまでフリーペーパーが展示される事が多い本屋やギャラリー、雑貨屋さん以外にも、町中のあちこちでフリーペーパーという発行者の想いや声が届く環境づくりに少しでも貢献できたらいいなあ。そんな風にちょっぴり思っている。

場づくりメモ：合同プロジェクトを確実に開催し、場所同士のネットワークを構築する

もう一つ計画中なのは（とはいっても構想段階で、まだ具体的な所まで全然落とし込めていないのだけど）”はちみつとフリーペーパーのお店”はっちとは別に、フリーペーパー以外の新たな本を軸としたスペースを来年以降にオープンさせる事だ。

まだ2017年現在は機会を見つけては本の先輩達、本屋の店主の方々に相談してはアドバイスをいただいたり、自分なりに勉強している段階で、新書を扱うのか？古本を扱うのか？そもそもちゃんと本屋をするのか？など決めないといけない事は沢山あるものの、はっちという場所で2年間、これまでフリーペーパーという本達と向き合った経験、これまでの場づくりの経験を生かして、また新たなチャレンジに取り組みたいと思っている（様々な未来の選択肢の中で、当面は今は「住み開き511」という名前で運営しているマンションの一室スペースを改装し、新たにリニューアルオープンするだけに留まるだけかもしれないが）

そしてまた、この新たなチャレンジをしていく事で、まずは『フリーペーパーに詳しい小さな本屋さん（あるいは本屋みたいな場所）』を次の段階として目指し、はっちとの相乗効果が生まれる事を目指していこうと考えている。そしていつかは、自分たちのスペース運営だけに留まらず、フリーペーパー、自費・商業出版に限らずに「本が町にあふれている」その為のあらゆる事にも自ら関わっていきたいと考えている。

それは、インターネットもスマホも何もなかった時代に学生時代を過ごした僕の下校途中に立ち寄った風景、町中にあった本屋、古本屋に並んでいた紙の本達が僕に何でも教えてくれた時代を再現したい。そんな懐古主義に見えるかもしれない。しかし、様々な事情で全国各地が書店が消え去っている今の時代だからこそ、また昔とは違った形での「本達との出会い、補助線」を新たに創れるのではないか？というクリエイティブな挑戦になると僕は捉えている。「本好きな見ず知らずの誰か」とか良ければぜひ合流してくれたらと願う。

最後に、ここまで読んでくれた方に深い感謝を。お恥ずかしながら文才のあまりの無さや言葉遣いや文法表現が大幅に稚拙である事を自覚しているので、なおのこと重ねて最後まで読んでくれた事をありがたく思う。「こちらも」スペースの運営と同じく、続ける事で少しずつ改善して、次回また、どこかの機会で再会できたら幸いだと思っている。

日本で1%しか出回らない
レアはちみつ、
あります。

はちみつ
お店

フリーペーパー
お店

大塚群
フリーペーパー研究会

フリーペーパーを募集し
その他持ち込みの企
ご相談ください！

はっち
って...?

はっちには、
ミツバチが集めた「はちみつ」が
ちょこんと可愛くならんでいます。
パチパチ一生かけて集められるはちみつの
量、
なんとティースプーン1杯分なんです。
ほんのわずかな量を、一生かけて残すって
なんだかすごい。
それってどんなことなんだろう...?

はっちは大阪初、
全国では東京、京都に続く
3番目のフリーペーパー専門店
として誕生しました。

全国の皆様が制作しているフリーペーパーを
募集し、店舗に設置しています。
また、WEB番組「はっちチャンネル」の放送、
毎月開催の「フリーペーパー研究会」などを
通して紹介させていただいています。

『はっち』は
はちみつとフリーペーパーの専門店です。

そんな珍しいお店「はっち」は
大阪駅のほど近く、
都会の景色の中にぽつんと佇む一軒家を
メンバーで改装して作りました。
だから、手作り感に溢れています！

OPENの目印
窓から漏れる黄色い灯り。
今は、毎週木曜日の夜8時以降だけ
営業しています。

はっちのはちみつは、はちみつ担当が
監製してはちみつを養蜂
直接お譲りいただいています。
はちみつ担当が飼育している
はちみつも今後お披露目してい
ます。

ティースプーン1杯分が語るミツバチ
ひとりでも多くの方にはっちを通
知してもらいたい。
はちみつは花と緑を必要とする
大地からの贈り物です。
その味、その魅力に恋に堕ちてみた
お持ちしております。

はっちが何故フリーペー
世界か

はちみつをたっぷり使ったお料理に、
はちみつからできたワインやウィスキーなども
ご用意してお待ちしております。

【はちみつ】にご興味のある方
【フリーペーパー】にご興味のある方
どちらかだけでも大歓迎。

「はっち」という名前には
こんな意味があります。

「あなたが何かに出会うための
昇降口になりたい」
というわけなので、何かを見つけに、
ふらりと立ち寄りください。

はっち

はちみつとフリーペーパーのお店

はっち

地下歩道

フリーペーパー研究会

はっち

Twitter @hachchi0504
Web site <https://hachchi.jp/>
Facebook <https://www.facebook.com/hachchi0504/>

場づくりメモ：続けていく事で新たに見えてくる未来を信じる

はっちの作り方

<http://p.booklog.jp/book/117042>

著者：田中冬一郎

著者プロフィール：<http://p.booklog.jp/users/waon0317/profile>

感想はこちらのコメントへ

<http://p.booklog.jp/book/117042>

電子書籍プラットフォーム：パプー (<http://p.booklog.jp/>)

運営会社：株式会社トゥ・ディファクト